

奥日光スノーシューハイク山行報告

【山行日】2019年1月26(土)～27(日)

【集 合】栃木市運動公園P AM 8:00

【費 用】マイカー1台 : 8,200円

【メンバー】CL:鈴木、大西、津佐、鶴見、
藤原、

【コースタイム】26日: 栃木市運動公園 P8:15
＝湯元 P9:45/10:15～小峠 11:40～刈込湖
12:20/12:30～ドビン沢出合 12:50/13:40～小峠
14:10～湯元 P15:10/15:20＝ホテル「おおるり
山荘」15:30

18日: おおるり山荘 8:30＝赤沼 P8:50/9:15～小田代ヶ原 P10:10/10:20～弓張峠 10:40～
庵滝 11:45/12:10～弓張峠 12:55～小田代ヶ原 P13:10/13:40～赤沼 P14:20/14:30＝
栃木市運動公園 P16:00

26日 晴れ時々曇り 湯元Pから蓼ノ湖、小峠を經由し刈込湖までスノーシューで往復する。

二日間志賀高原でスノーシューハイクを楽しむ予定だったが、週末の天気予報は今シーズン最強の寒気が日本列島を覆い大雪の予測なので、志賀高原は断念し奥日光に計画を変更した。



大坊山から大小山山行の途中で志賀高原のホテルにTELLし、事情を話したらキャンセル料は無料になった。さらに日光湯元のホテルに予約を入れ、何とか格安ホテルを予約できた。参加者は5名と少なくなったが、栃木市運動公園を出発し日光湯元の駐車場に向かった。1日目は奥日光の刈込湖を往復するコースを歩くことにした。湯元の駐車場に車を止め、準備を整えトイレやストレッチを済ませ出発する。駐車場から温泉街を抜け、湯元温泉の源泉にある登

山口に向かう。登山口でスノーシューを付け、急な坂道を九十九折れに登り金精道路に出る。道路を渡った所が刈込湖の入口になり、夏道は真っ直ぐトラバース道を進むが、冬道はここから左に急斜面を下り蓼ノ湖に向かう。冬道はあまり歩かれていないようで、トレースはあるが固まってなく足を取られる。苦労しながら蓼ノ湖まで下り、湖畔を廻るように進んで小峠に向かう。谷間を進むので風も弱く、薄日が差して温かく感じるようになってきた。急な坂を頑張って登り、標識が立つ小峠に着く。ここからも夏道はトラバース道を進むが、冬道は谷間を下るように進む。



夏道ははっきりしたトレースが付いていたが、冬道は今日先行者が歩いたばかりで結構スノーシュー



ーが雪に沈む。雪化粧した谷間は美しく、風も無くて楽しく歩ける。刈込湖に近づくと狭い沢の中を歩くようになり、急な下りや登りが連続し歩きにくい。小峠から40分ほど歩くと刈込湖に着き、ランチの予定だったが風が強く寒いので戻って谷間の温かい場所で食べることにする。記念写真を撮ったら来た道を戻り、途中の平らな場所でランチタイムとする。風も無く暖かい場所で、うどんとお汁粉を作りゆっくりいただくことにする。冷え切った体に温かいうど

んとお汁粉はとてもありがたく、冷えた体を温ためてくれる。

ランチでエネルギーを補給し、お汁粉からパワーをもらい元気に下山を開始する。小峠まで戻るとツアーの団体が居て、先に下山して行くが急な下りに転倒者が続出していた。我々も後から下り、転倒しないよう慎重に下る。ツアーのグループは途中で道を譲り、我々が先行して下って行く。



皆さん上手に下り、転倒することなく無事下り切る。蓼ノ湖から金精道へ登り返し、ここから2人は金精道路を下ってホテルまで行き、残り3人は来た道を駐車場まで戻る。靴を履き替えたら車に乗り、今宵の宿「おおり山荘」に向かう。ホテルに着くと2人はすでに到着しており、荷物を運んだら受付をする。

部屋に入り荷物を整理したら温泉に入る。

ところが温泉が故障していて温度が低く、シャワーも水しか出ない状態になっていた。頭も洗えず湯船でじっと温まるまで我慢し、温まったら素早く着替える。7時から夕食の時間になり、全員揃って1階のレストランに行く。夕食は飲み放題付のバイキングになっており、皆好きなものを皿に取り生ビ



ールやワインで乾杯する。料金が安い割にはバイキングの品数も豊富で、好きなものを食べ会話も弾む。今日は全豪オープン女子決勝が行われており、大阪なおみが優勝するかもと気が気ではない。部屋に戻り皆でテレビを見ることにし、男性の部屋に集合する。セットカウント1オールでファイナルセットに入っていた。ビールを飲みながら観戦し、1ポイント取るとに大歓声。第3セットを取って優勝した瞬間は、大興奮の状態だった。

興奮が収まったら女性陣は部屋に戻り、明日のスノートレッキングに備えて床に就いた。

27日 晴れ時々曇り 赤沼P から小田代ヶ原・弓張峠を経由し庵滝までスノートレッキング

朝起きて窓の外を見ると、雪が少し舞っていた。テレビで天気予報を見ると、晴れるが風が強い予



報になっていた。まずは温泉に入り頭を洗い、髭を剃ることにし温泉に向かう。温泉は昨日と同じでぬるかったが、シャワーは温かいお湯が出るので頭を洗った。7時30分から朝食なので、5分前に部屋を出てレストランに行く。朝食もバイキングで、お惣菜の種類も多く美味しくいただいた。

今日は、小田代ヶ原の先にある庵滝まで、スノートレッキングを楽しむ予定だ。ホテルを8:30分に出発し、赤沼茶屋の駐車場に車を止め

る。すでに満車だったが、道路側に日光ビジターセンターの車が止まっていたので「ここに止めて大丈夫ですか？」と聞き、「大丈夫です」と言われ安心して止められた。準備を整えたら道路を渡り、トイレを済ませてストレッチを行って出発する。

大勢が歩き、雪が踏み固められているので、スノーシューを付けずツボ足で歩くことにした。赤沼から川沿いの道を進み、戦場ヶ原への分岐から少し先の太鼓橋を渡って小田代ヶ原へ向かう。風は感じるがそれほど強くなく、自然林の雪道はとても気持ちよく歩ける。戦場ヶ原展望台で休憩し、衣服調整と水分補給を行う。緩やかなアップダウンを繰り返し、アツと言う間に小田代ヶ原バス停に着いた。東屋で大勢の方が休憩しており、我々も東屋の中で休憩



を取る。トイレは冬季閉鎖されているが、東屋で休憩できるだけでもありがたい。皆さん目指すところは庵滝のようで、最近ネットで人気のスポットのようだ。ここから道路を歩き、弓張峠を下りた所から右にカラマツ林の中を進む。大勢の人ではっきりとトレースが付いており、トレースに沿って歩けば迷うことは無い。若者のグループに追い越されるが、すぐ先でスノーシューを直すので抜き返す。そんなことを4~5回繰り返しながら沢沿いに登って行く。滝の数百メートル手前で、トレースが左右に分かれ右のトレースを行くように下山して来た方から教えてもらう。沢を渡り登り返す斜面が急斜面で、スノーシューを付けてる方達は難儀していた。そこからほんの少し登ると庵滝に着き、大勢の登山者が休憩し昼食を食べていた。庵滝と言っても実際の庵滝はもっと上



部にあるようで、岩からしみ出した水が凍り氷瀑状になっている。

氷瀑までは小さな沢を渡るが、F 原さんは怖いと言って渡らなかった。氷瀑まで行くと、大きなツララ



がブルーに輝きとても美しい。ツララの下で記念写真を撮り、皆さんが休憩している場所でカステラを食べる。混雑しているので小田代ヶ原バス停まで戻り昼食を食べることにする。

下りはアイゼンを付けたいと言うので、アイゼンやスノーシューを付けて下ることにする。

我輩はツボ足で下ることにし、弓張峠まで快調に下って行く。ここからはアイゼンを外し、ツボ足で小田代ヶ原バス停まで行く。バス停の東屋でライ

イチタイムとし、お湯を沸かして持ってきたカップ麺をいただく。ここからも来た道に戻るが、天気は回復して青空が広がり男体山もくっきり見える。赤沼茶屋まで戻り、靴を履き替えトイレを済ませたら帰路につく。道路の雪はほとんど解けて、いろは坂も順調に下れ、予定よりも早く栃木市運動公園に帰着した。志賀高原は1晩で70cmの降雪があったようで、奥日光に変更して本当に良かったと思った。

しかも2日間楽しんでも費用が8200円であがり、とてもリーズナブルな山行に皆さんも満足したようだ。

